

福島環境記録プロジェクト成果展

撮影:赤阪友昭

山で生きる

—三島町間方の暮らし—

2016年2月11日|木|—21日|日|

(9:00-17:00、最終日16:00迄、休館日:2月15日|月|)

三島町交流センター 山びこ

(福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上418)

| 観覧無料 |

主催:はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会
後援:三島町



はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト参加作家の写真家・赤阪友昭は、2014年から三島町間方地区を度々訪れ、撮影を重ねてきました。間方地区の自然、人々の暮らしを追いかけた2年間の撮影では、山で生きる人々の姿が浮かび上がってきました。今回、その成果をご紹介しますため、間方の風土を中心にそこに暮らす家族ポートレートと集落をドキュメントした写真展を開催します。

ある一面からは中山間地の限界集落として見られる間方地区。しかしそこで赤阪友昭が発見したのは、自然との真っ当な関係性を保ち、山への畏怖と恵みへの感謝を抱きながら生きる人々の豊かな精神性でした。それは、かつて福島県内各地、日本各地にみられた変わらないものの一つです。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故で露呈した現代文明の限界。そこから次のステージに移るための未来の希望の一つが、間方にあるのかもしれません。赤阪友昭の視線をたどりながら、みなさんと間方に学びたいと思います。ぜひお出かけください。

赤阪友昭(あかさか・ともあき)

1963年、大阪市生まれ。写真家。1996年、モンゴルでの遊牧生活及びアラスカ先住民の村での暮らしから撮影をはじめ。雑誌等に写真と文を掲載し、公共プラネタリウムの番組制作や国立民族学博物館での写真展など積極的に活動を続ける。日本各地の山や森に残された原初の信仰、縄文文化や祭祀を撮影・取材。また、2013年9月より福島を写真で記録するためのプロジェクト「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトー写真美術館プロジェクト」に参加し、人間と自然との距離についての思索と表現を続けている。2009年から写真ギャラリー photo gallery Sai (大阪)を主宰。近著に『The Mythー神話の風景からー』がある。
http://www.akasakatomoaki.net



1. 伝統の編み組細工 2. 雪山へ向かう道 3. 間方全景 4. 葡萄蔓の収穫 5. お盆の送り火 6. 夏のひとコマ

移動式写真館を開催します!

移動式赤阪写真館




[日時]
2月13日[土]&14日[日]
20日[土]&21日[日]
各10:00~12:00
15:00~17:00
(21日午後は14:00~16:00)

撮影:赤阪友昭 | 無料 | 申込不要 |
(希望者多数の場合は、お待ちいただく場合がございます。)

家族写真は、その家族の人生の記録です。会場で展示している間方の家族写真のみなさんのように、今、ここに一緒にいることの喜びを家族で分かち合ってください。山びこのギャラリー内に4日間限りの移動式赤阪写真館をオープンします。ご希望のご家族を赤阪友昭が撮影。その場でプリントしてお渡します。

[はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト]

福島県立博物館が福島県内の大学、文化施設、NPO等との連携により2012年から実施しているアートプロジェクト。はま(福島県の太平洋側)、なか(東北新幹線、東北自動車道が貫く福島県の中央部)、あいづ(新潟県に隣接する福島県の山間部)で展開する活動を通して、福島の文化・歴史・自然の豊かさを再発見すること、福島が抱える課題を共有し共に考える場を生み出すことを目的としています。2015年度は、8つのプロジェクトを実施。

 はま・なか・あいづ 文化連携プロジェクト hamanakaaizu.jp 詳しくはこちら↓

[事業についてのお問合せ]

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会事務局
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
(福島県立博物館内)
Tel: 0242-28-6067 (事務局直通) もしくは
0242-28-6000 (福島県立博物館代表)
* 毎週月曜日、祝日の翌日は休業。
Fax: 0242-28-5986 (福島県立博物館内)

山で生きる —三島町間方の暮らし—

2016年2月11日[木]ー21日[日] | 観覧無料 |

[会場]

三島町交流センター 山びこ

〒969-7402 福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上418
Tel: 0241-52-2165 / Fax: 0241-52-2166

